

## 2. 悪質商法の被害経験等

---

今回の調査では、主な悪質商法のうち、特に高齢者が狙われやすいとされる次の5つの商法について、認知度及び被害経験について調査した。

### 【架空請求】

アダルトサイトなどで、利用料金や利用規約を明確にせず、消費者がクリックすると「契約完了」「料金請求」などと表示し、高額な料金を請求するという商法。

### 【点検商法】

「点検に来た」「無料で点検する」と言って家に上がりこみ、「布団にダニがいる」などと不安をあおり、商品やサービスを契約させる商法。布団類・浄水器・リフォーム工事・建物清掃サービスなど。

### 【次々販売】

消費者が一度契約すると、必要の無い商品やサービスを次々と販売して過剰な量の契約をさせる商法。複数の事業者が入れ替わり販売するケースもある。健康食品・布団類・エステ・リフォーム工事など。

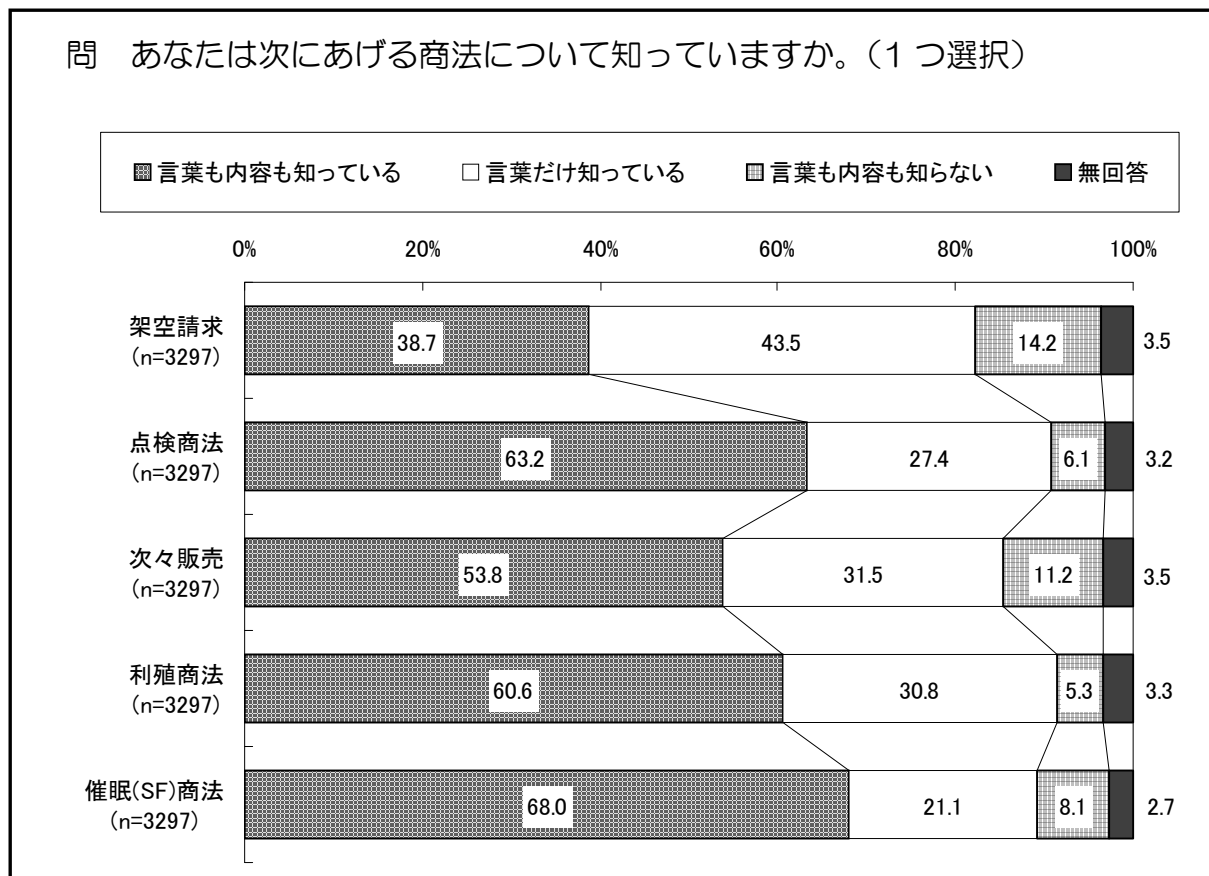
### 【利殖商法】

「値上がり確実」「必ず儲かる」など利殖になることを強調し、投資や出資を勧誘する商法。株・公社債・分譲マンション・ファンド型投資商品など。

### 【催眠（SF）商法】

「景品をプレゼントします」「健康に良い話をする」と言って人を集め、締め切った会場で日用品等を次々に無料で配り、雰囲気盛り上げ興奮状態にして、最終的に高額な商品売りつける商法。

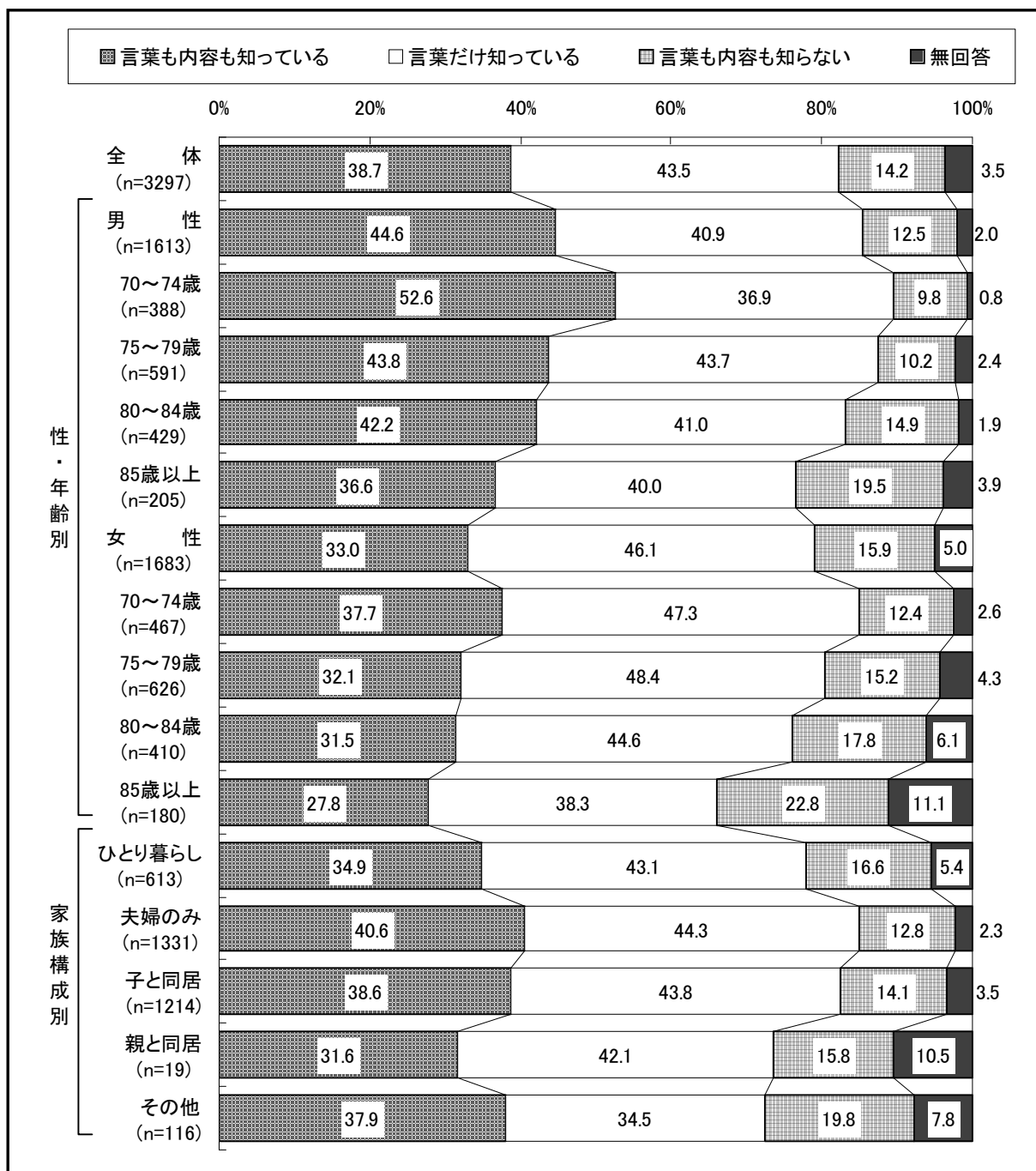
## (1) 悪質商法の認知



5つの悪質商法について、「言葉も内容も知っている」を見ると、催眠(SF)商法が68.0%と約7割で最も高くなっている。次いで、点検商法が63.2%、利殖商法が60.6%、次々販売が53.8%と、いずれも5~6割程度となっているが、架空請求は38.7%と最も低く、1位の催眠(SF)商法に比べて29.3ポイントも低かった。

認知度(「言葉も内容も知っている」+「言葉だけ知っている」)を見ると、利殖商法が91.4%と最も高く、次いで点検商法が90.6%、催眠(SF)商法が89.1%、次々販売が85.3%、架空請求が82.2%となっている。

## 架空請求の認知（性・年齢別、家族構成別）

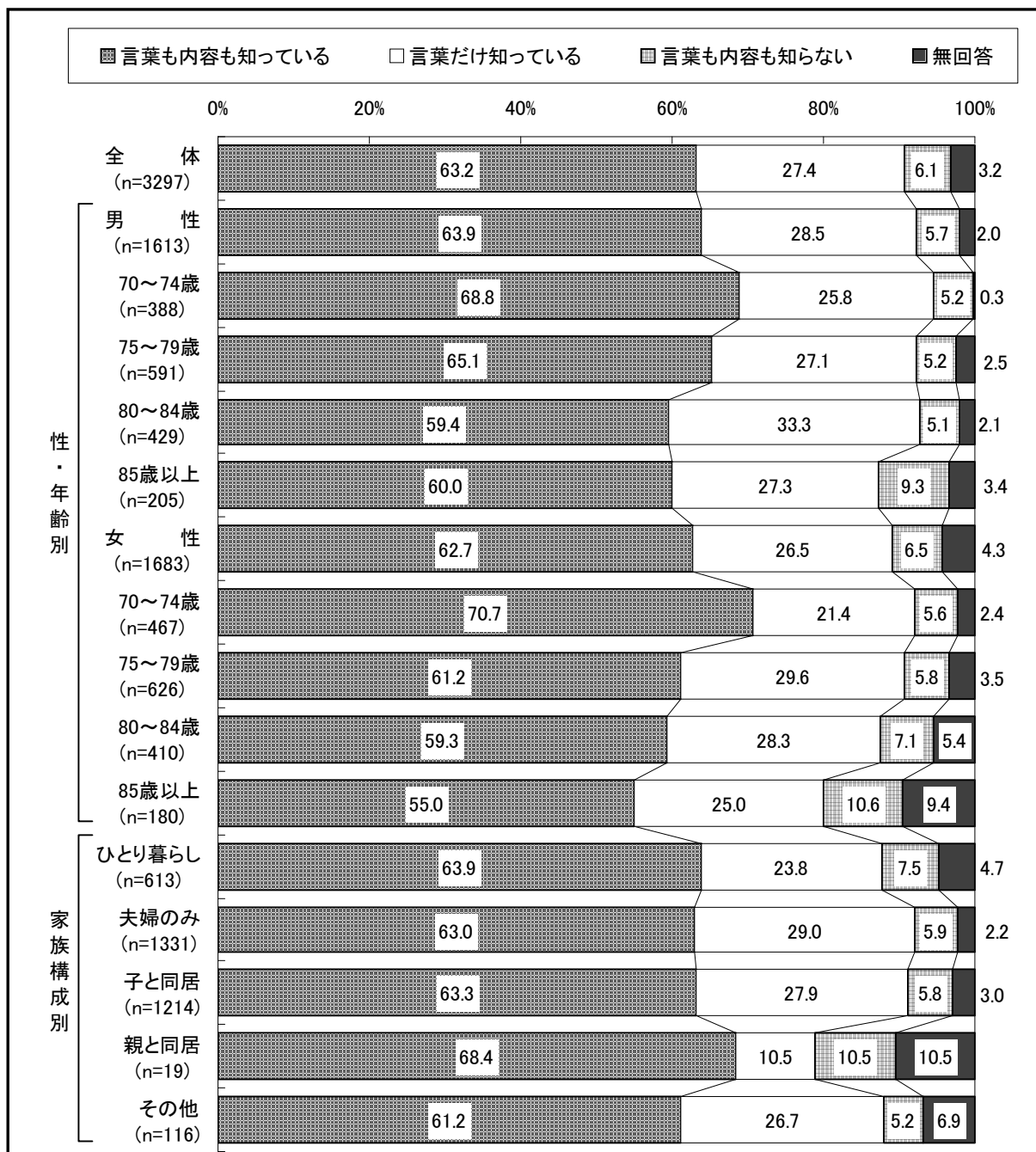


架空請求の認知について、性別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、男性が 44.6%、女性が 33.0%と 11.6 ポイント男性が高くなっている。

性・年齢別に見ると、全ての年齢区分において男性が女性を上回っており、また、男女ともに年齢区分が低いほど割合が高くなっている。最も高かったのは、男性 70～74 歳で 52.6%、最も低かったのは、女性 85 歳以上で、27.8%と 3 割以下となった。

家族構成別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、夫婦のみが 40.6%で最も高くなっている。認知度（「言葉も内容も知っている」+「言葉だけ知っている」）では、夫婦のみが 84.9%、子と同居が 82.4%と共に 8 割を超えている。

## 点検商法の認知（性・年齢別、家族構成別）

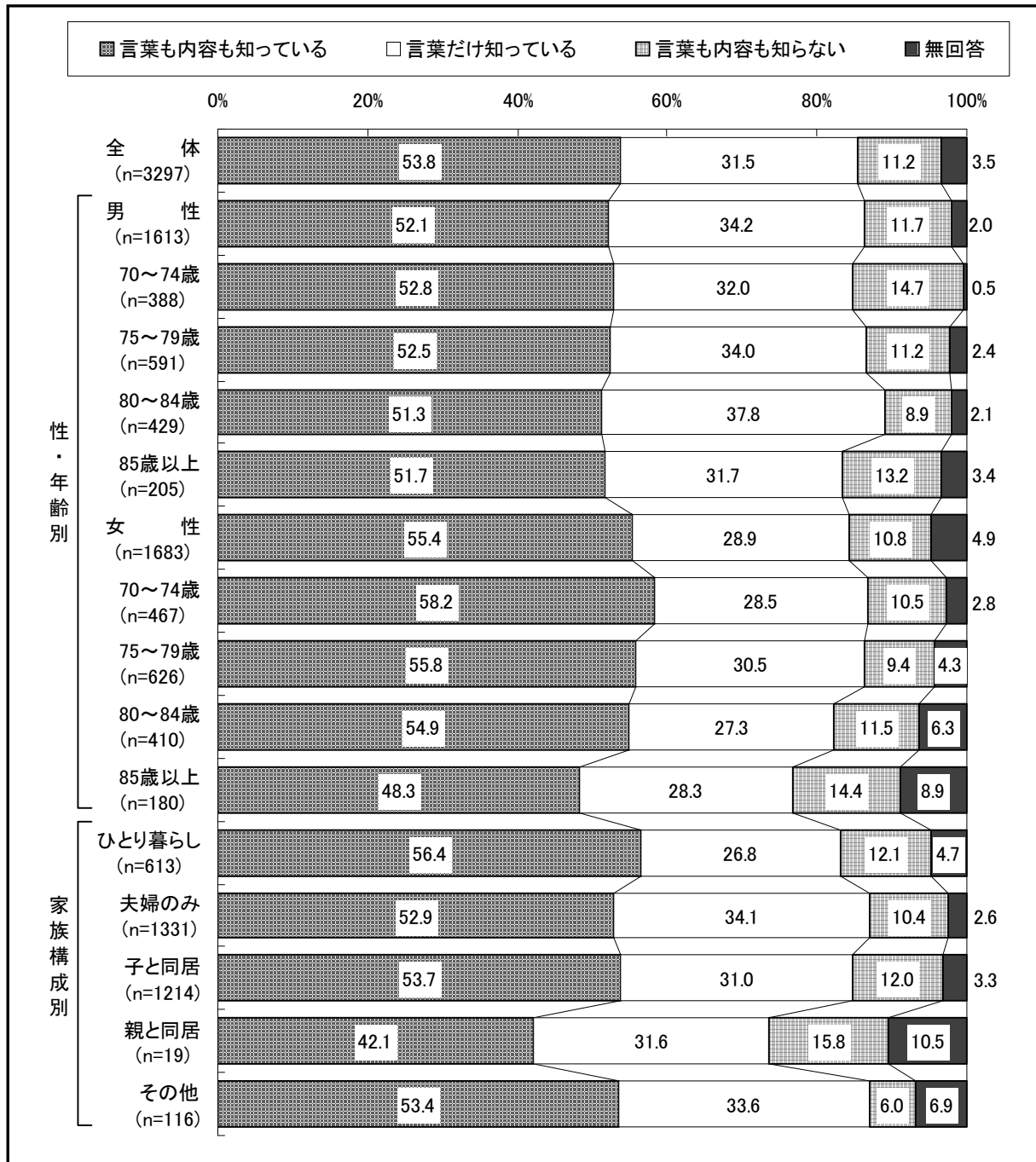


点検商法の認知について、性別に見ると、「言葉も内容も知っている」では男性は63.9%、女性は62.7%とほとんど差は見られない。

性・年齢別に見ると、最も高くなっているのは男女ともに70~74歳で、女性は70.7%、男性は68.8%と約7割となっている。また女性85歳以上では55.0%と最も低くなっている。

家族構成別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、親と同居が68.4%で最も高く、ひとり暮らしが63.9%、子と同居63.3%、夫婦のみが63.0%、その他が61.2%と全ての区分で6割以上となっている。親と同居では「言葉も内容も知っている」は68.4%で最も高いものの、認知度（「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけ知っている」）で見ると78.9%と最も低く、また「言葉も内容も知らない」が10.5%と他の区分に比べて高くなっている。

次々販売の認知（性・年齢別、家族構成別）

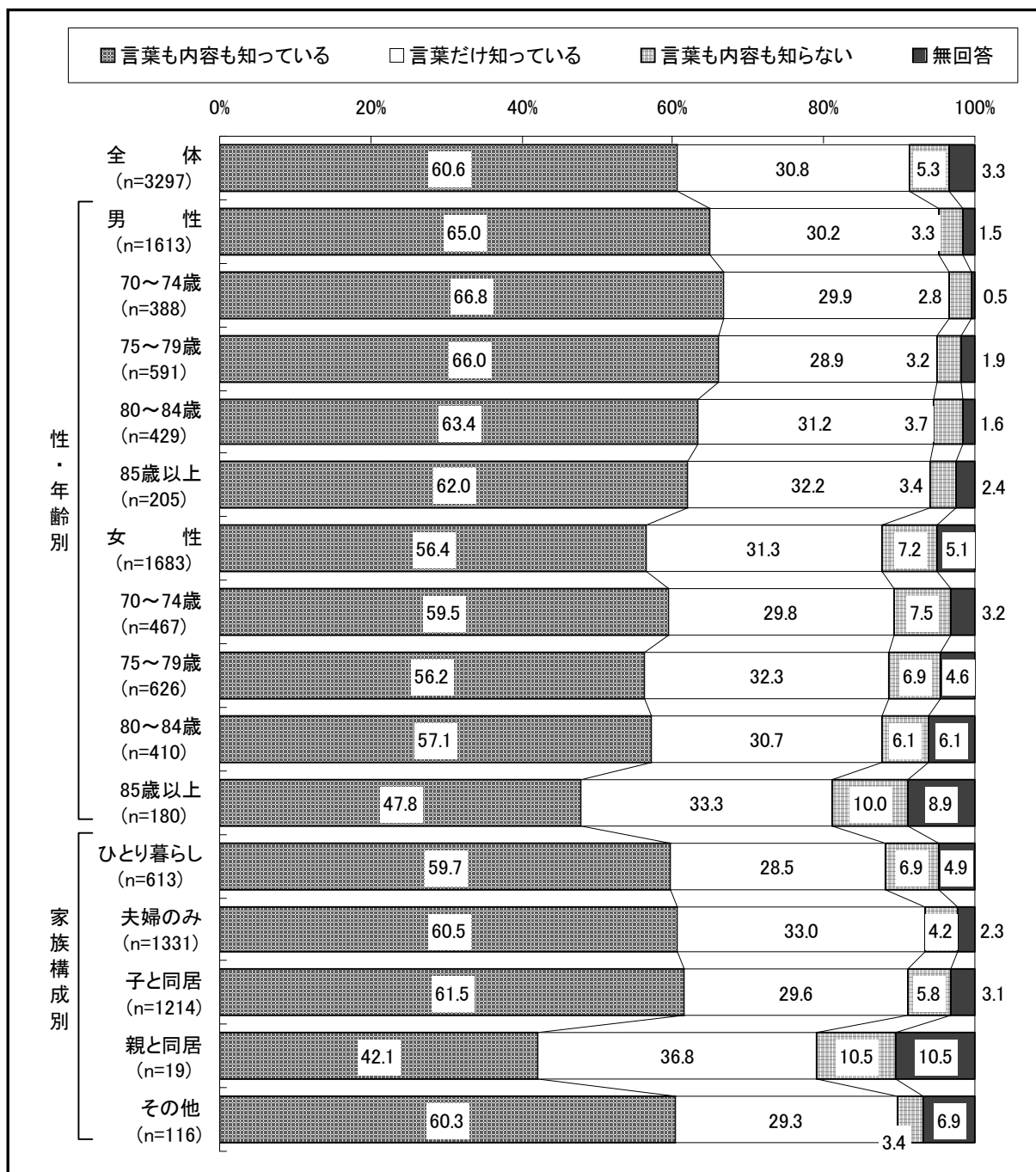


次々販売の認知について、性別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、男性 52.1%、女性が 55.4%と 3.3 ポイント女性が高くなっている。

性・年齢別に見ると、女性 70~74 歳が 58.2%で最も高く、最も低かったのは、女性 85 歳以上で 48.3%となり、唯一 5 割を切った。

家族構成別に見ると、「言葉も内容も知っている」ではひとり暮らしが 56.4%で最も高くなっており、子と同居 53.7%と続いている。親と同居は 42.1%と最も低くなっており、認知度（「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけ知っている」）で見ても 73.7%と 8 割に満たない。

利殖商法の認知（性・年齢別、家族構成別）

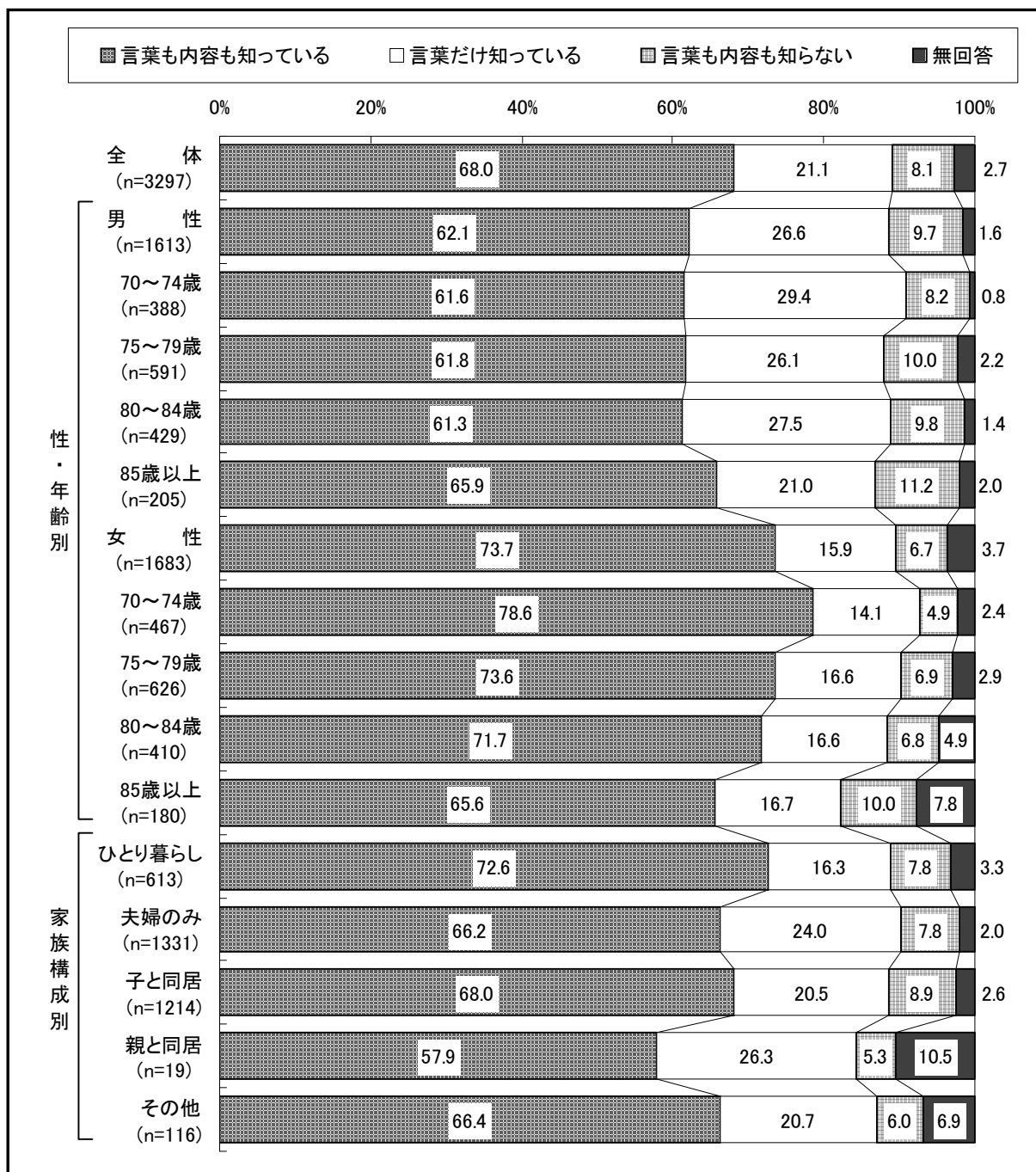


利殖商法の認知について、性別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、男性が 65.0%、女性が 56.4%と 8.6 ポイント男性が高くなっている。男性の認知度（「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけ知っている」）を見ると 95.2%と 9割を超えている。

性・年齢別に見ると、男性 70～74 歳が 66.8%で最も高く、女性 85 歳以上では 47.8%と最も低くなっている。全ての年齢区分で、男性が女性を上回っている。

家族構成別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、子と同居が 61.5%で最も高く、夫婦のみが 60.5%と続いている。親と同居では、42.1%と他と比べて 20 ポイントほど低くなっている。

催眠(SF)商法の認知（性・年齢別、家族構成別）



催眠(SF)商法の認知について、性別に見ると、「言葉も内容も知っている」では男性が62.1%、女性が73.7%と11.6ポイント女性が高くなっている。

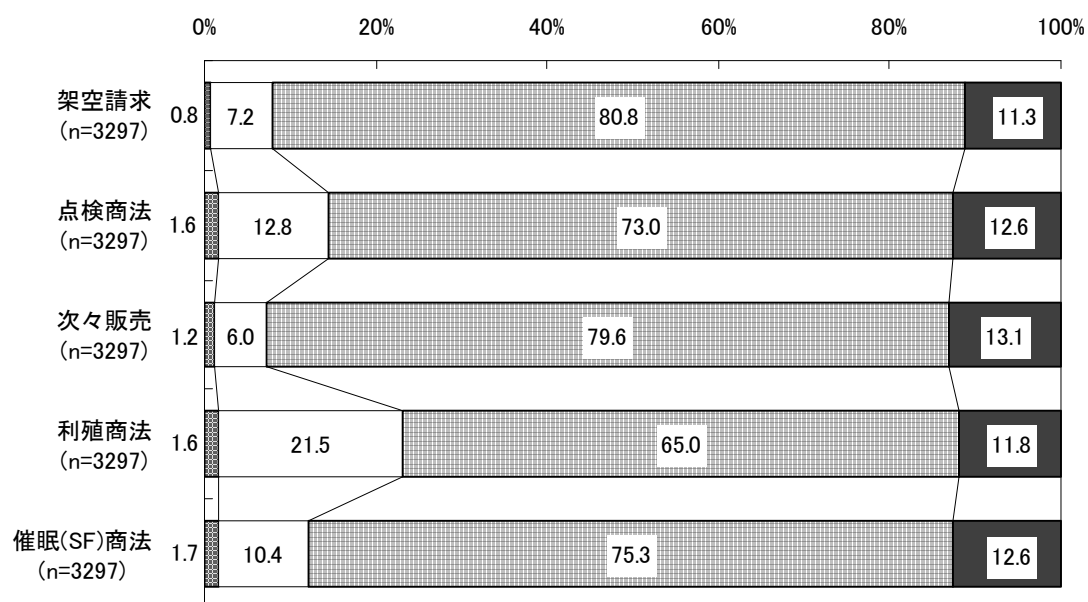
性・年齢別に見ると、女性70~74歳が78.6%で最も高く、女性75~79歳が73.6%、女性80~84歳が71.7%と続いている。女性は、最も低い女性85歳以上でも65.6%と、全ての区分において6割を超えている。

家族構成別に見ると、「言葉も内容も知っている」では、ひとり暮らしが72.6%で最も高く、7割を超えている。次いで子と同居が68.0%が続いている。

## (2) 悪質商法の被害経験

問 あなたは、60歳を過ぎてから、悪質商法の被害にあった（契約した・お金を支払った）ことがありますか。（1つ選択）

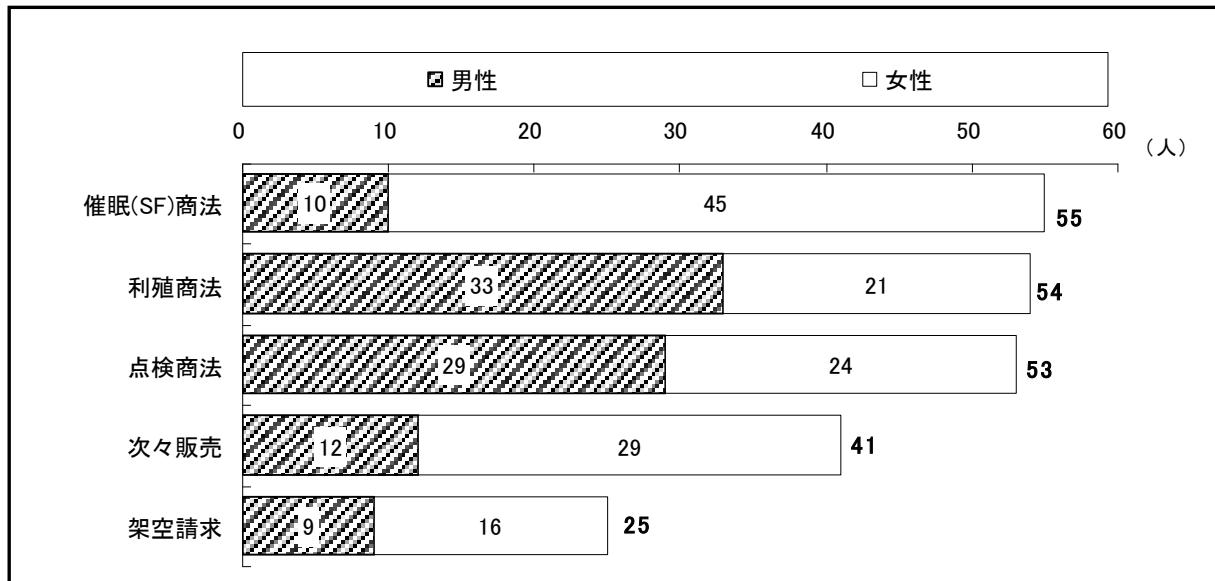
被害にあったことがある       被害はないが、請求又は勧誘されたことがある  
 被害にあったことも勧誘（請求）されたこともない       無回答



60歳を過ぎてからの5つの悪質商法の被害経験を見ると、いずれの商法においても「被害にあったことがある」は1～2%程度となっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、利殖商法が21.5%で最も高い。次いで点検商法が12.8%、催眠（SF）商法が10.4%と続いている。

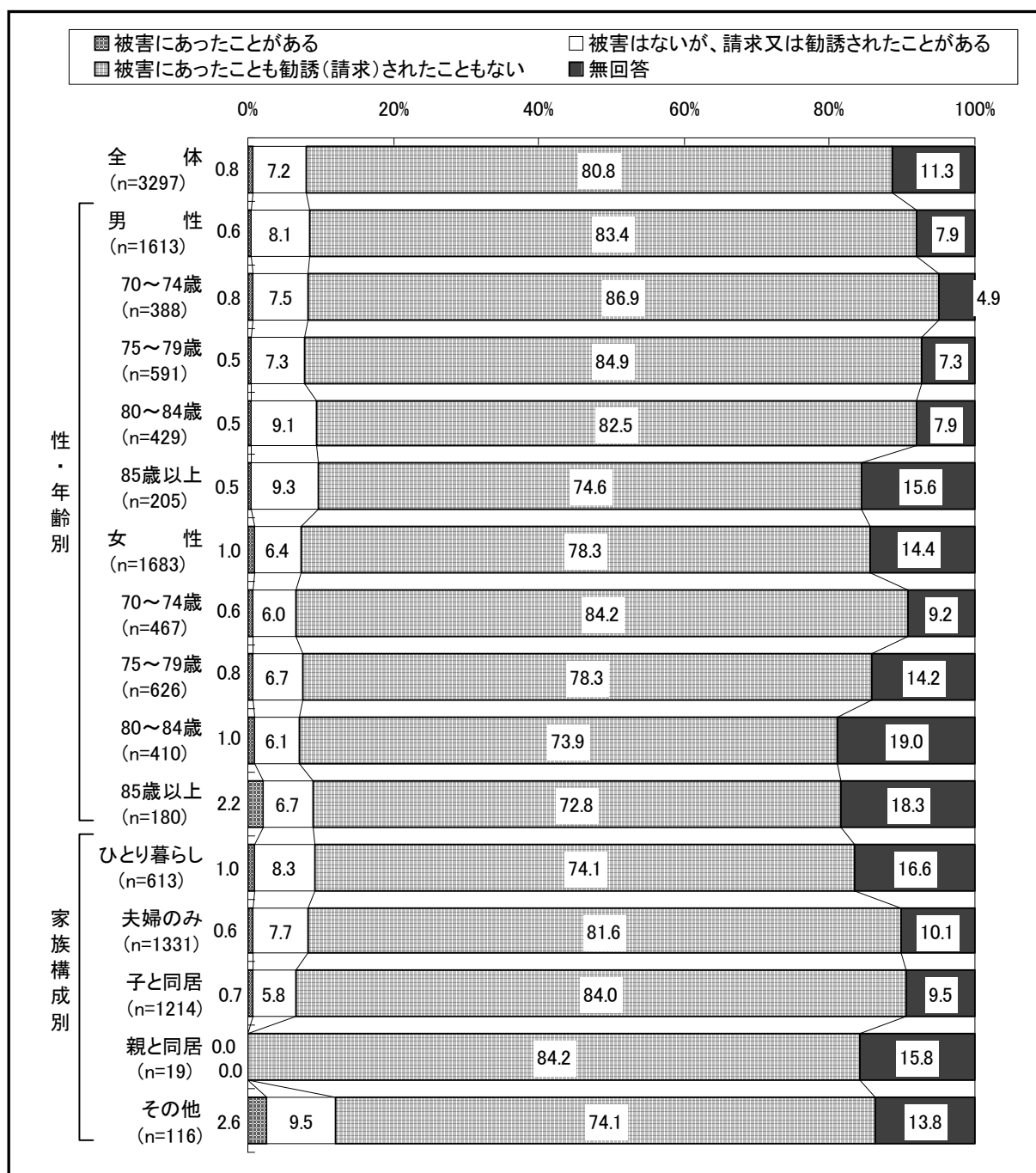


被害にあった人の延べ人数（悪質商法別）



「被害にあったことがある」人は、催眠（SF）商法が 55 人、利殖商法が 54 人、点検商法が 53 人、次々販売が 41 人、架空請求が 25 人となっており、被害にあった人の延べ人数は 228 人となった。

## 架空請求の被害経験（性・年齢別、家族構成別）

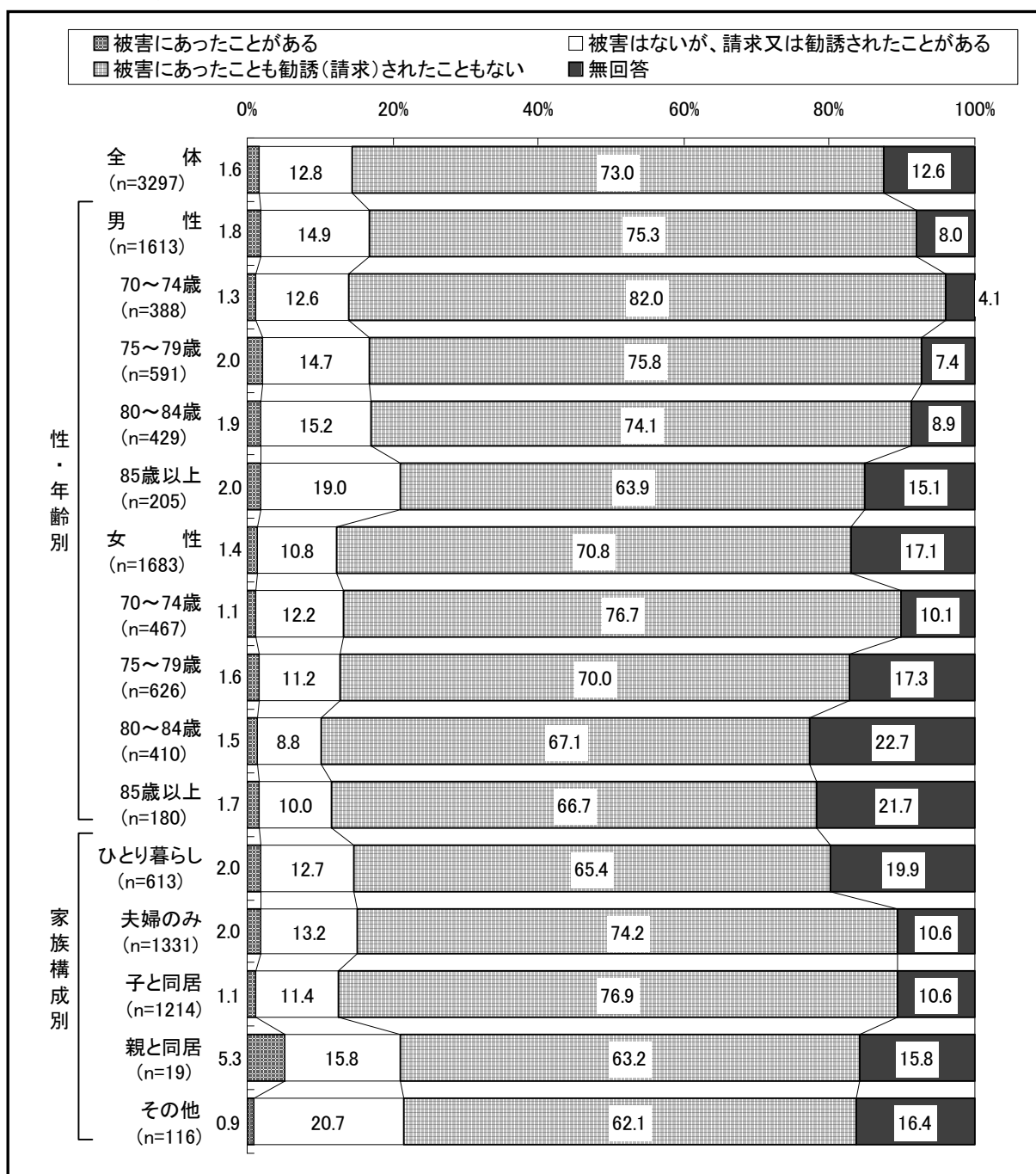


60歳を過ぎてからの架空請求の被害経験について、性別に見ると、「被害にあったことがある」が、男性が0.6%、女性が1.0%となっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、男性が8.1%、女性が6.4%と男性が高くなっている。

性・年齢別に見ると、「被害にあったことがある」では、女性85歳以上が2.2%で最も高くなっている。

家族構成別に見ると、「被害にあったことがある」では、その他が2.6%、ひとり暮らしが1.0%となっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、その他が9.5%で最も高く、ひとり暮らしが8.3%が続いている。

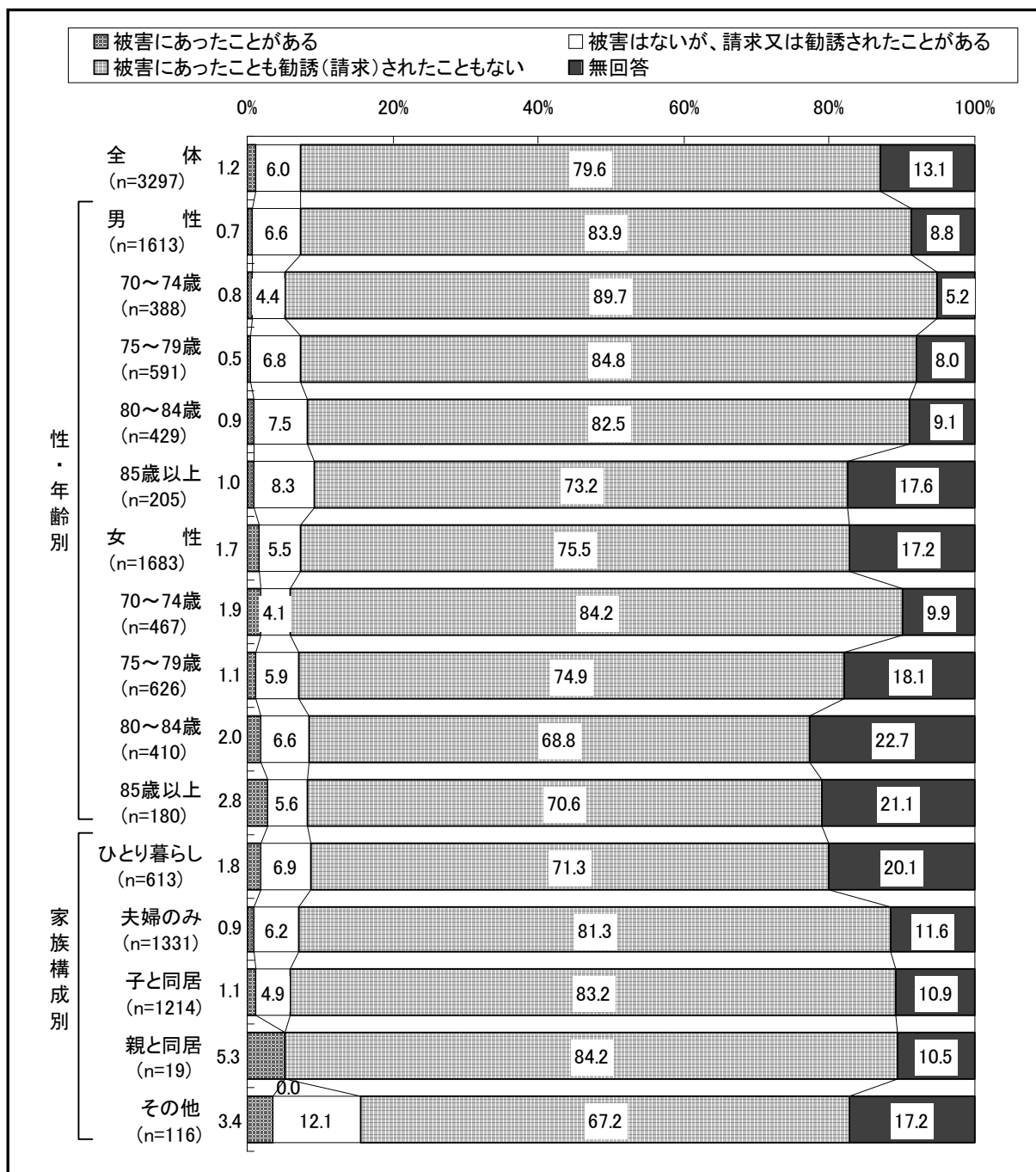
## 点検商法の被害経験（性・年齢別、家族構成別）



60歳を過ぎてからの点検商法の被害経験について、性別に見ると、「被害にあったことがある」では男性が1.8%、女性が1.4%となっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、男性が14.9%、女性が10.8%と男性が高くなっている。性・年齢別に見ると、男性85歳以上が19.0%、男性80～84歳が15.2%と80代男性が高くなっている。

家族構成別に見ると、「被害にあったことがある」では、親と同居が5.3%で最も高くなっている。次いでひとり暮らしと夫婦のみが同率2.0%となっているが、件数ではひとり暮らしが12人に対して、夫婦のみでは26人となっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、その他が20.7%で最も高く、親と同居が15.8%、夫婦のみが13.2%と続いている。

## 次々販売の被害経験（性・年齢別、家族構成別）

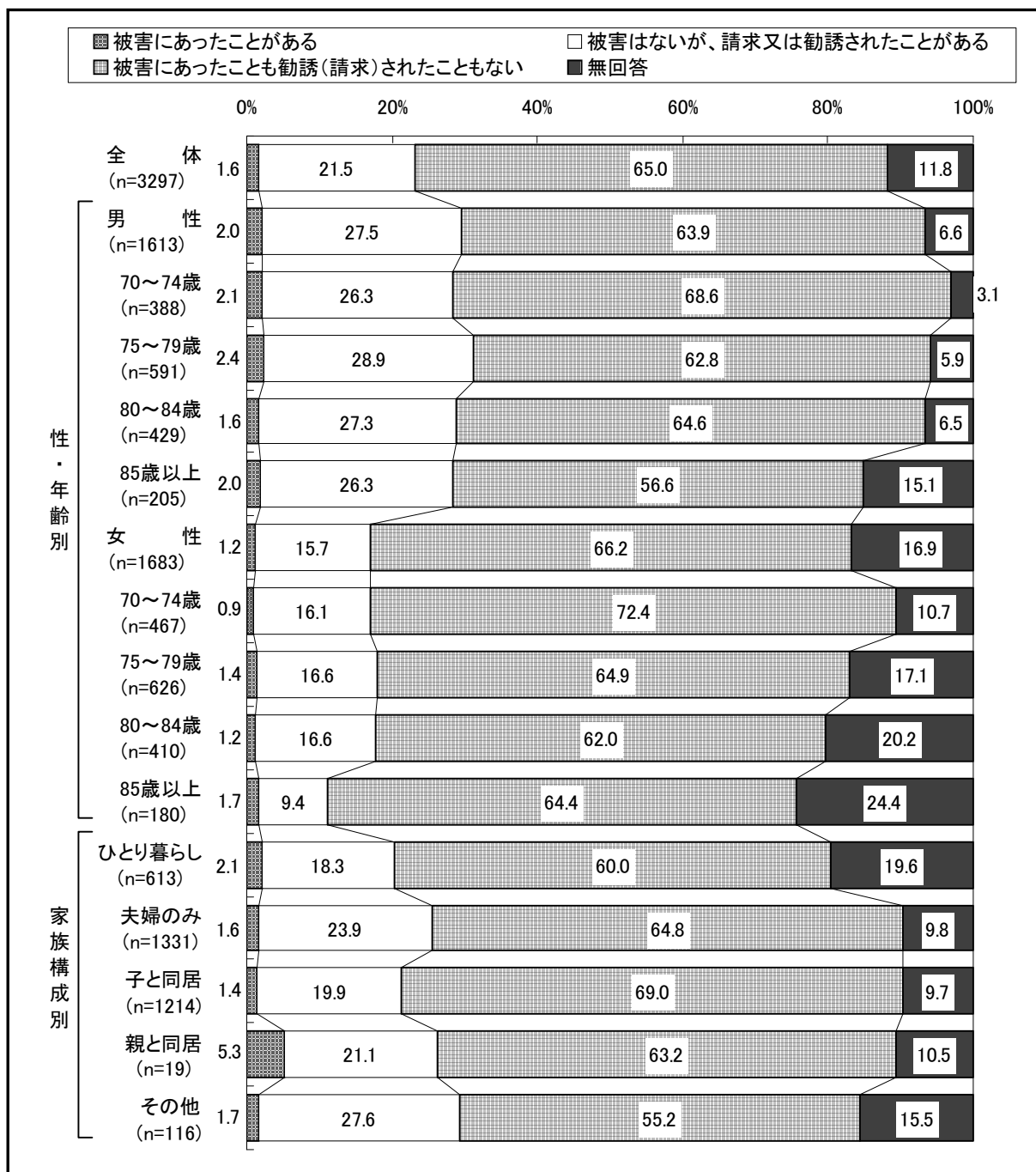


60歳を過ぎてからの次々販売の被害経験について、性別に見ると、「被害にあったことがある」では男性が0.7%、女性が1.7%と女性が高くなっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、男性が6.6%、女性が5.5%と男性が僅かに高くなっている。

性・年齢別に見ると、「被害にあったことがある」では、女性85歳以上が2.8%、女性80～84歳が2.0%と80代女性が高くなっている。

家族構成別に見ると、「被害にあったことがある」では、親と同居が5.3%で最も高くなっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、その他が12.1%で最も高く、ひとり暮らしが6.9%、夫婦のみが6.2%と続いている。

利殖商法の被害経験（性・年齢別、家族構成別）

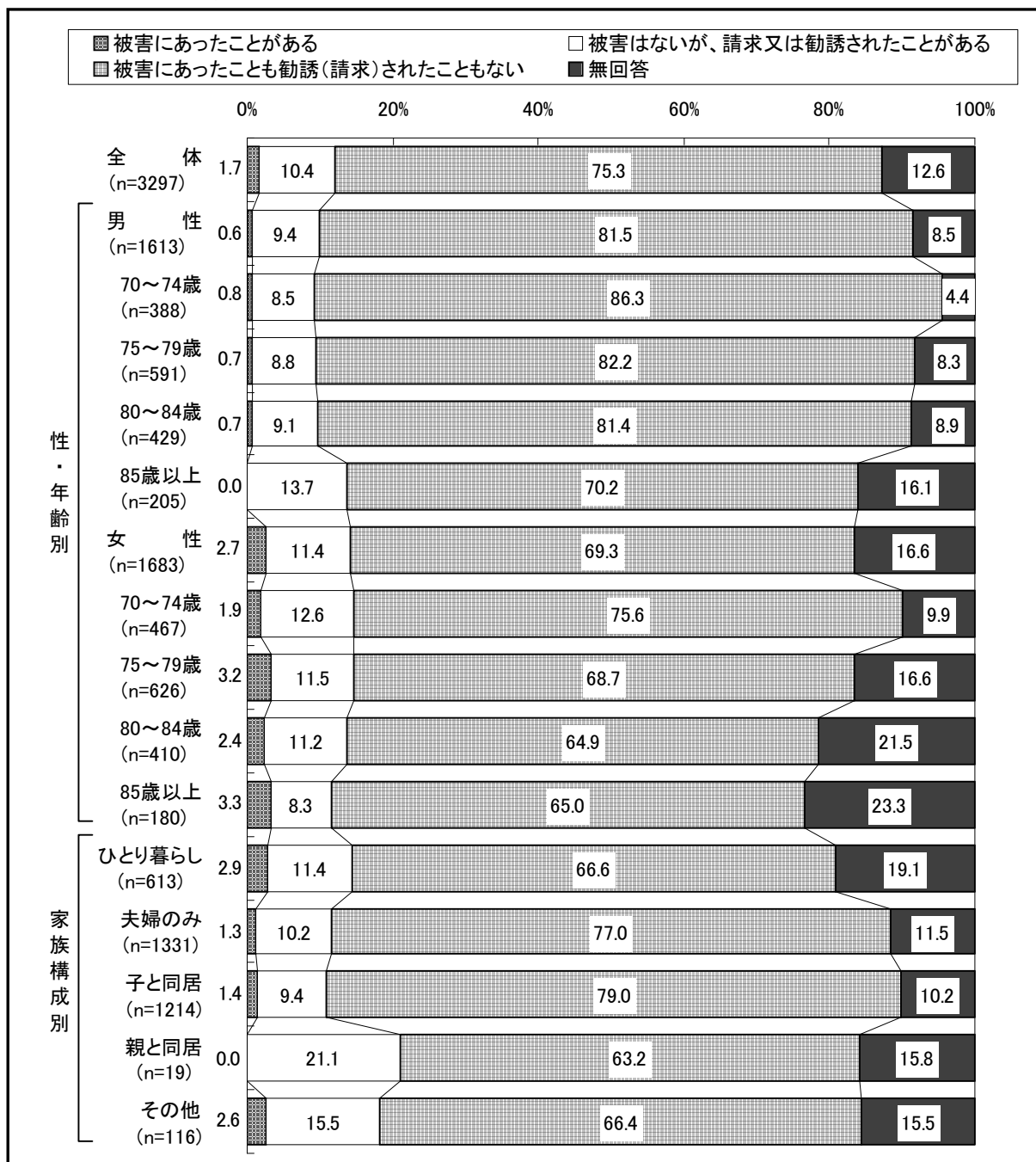


60歳を過ぎてからの利殖商法の被害経験について、性別に見ると、「被害にあったことがある」では男性が2.0%、女性が1.2%と男性が高くなっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、男性が27.5%、女性が15.7%と男性が11.8ポイント高くなっている。

性・年齢別に見ると、「被害にあったことがある」では、男性75～79歳が2.4%で最も高く、男性70～74歳が2.1%で続いている。

家族構成別に見ると、「被害にあったことがある」では、親と同居が5.3%で最も高く、ひとり暮らしが2.1%で続いている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、その他が27.6%と最も高く、夫婦のみが23.9%、親と同居が21.1%で続いている。

催眠(SF)商法の被害経験（性・年齢別、家族構成別）

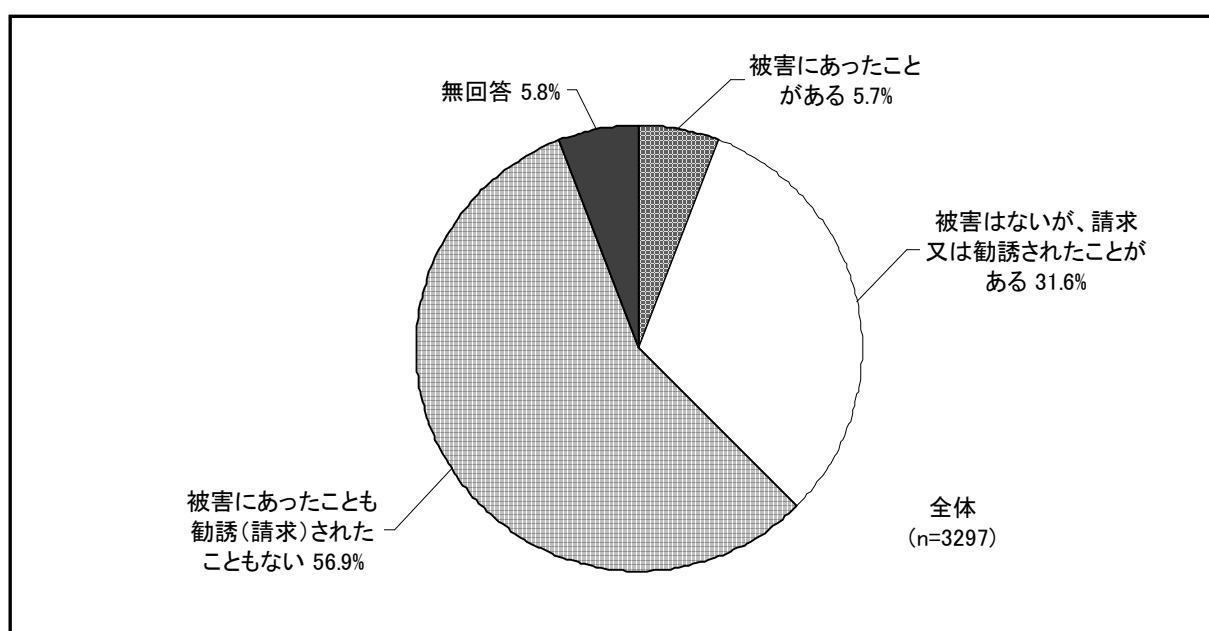


60歳を過ぎてからの催眠(SF)商法の被害経験について、性別に見ると、「被害にあったことがある」では、男性が0.6%、女性が2.7%と女性が2.1ポイント高くなっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」でも、男性が9.4%、女性が11.4%と女性が高くなっている。性・年齢別に見ると、「被害にあったことがある」では、女性85歳以上が3.3%で最も高く、女性75～79歳が3.2%、女性80～84歳が2.4%となっており、75歳以上の女性が高くなっている。

家族構成別に見ると、「被害にあったことがある」では、ひとり暮らしが2.9%で最も高くなっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、親と同居が21.1%で最も高くなっている。次いでその他が15.5%、ひとり暮らしが11.4%となっている。

### (3) 5つの悪質商法で、いずれかの被害にあった経験

5つの悪質商法の中で、いずれかの被害に1つでもあった経験をもつ人を「被害にあったことがある」とし、それ以外の人を「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」、「被害にあったことも勧誘（請求）されたこともない」に分類した。また5つの悪質商法に対する複数の回答から分類しているため「被害にあったことがある」の中には様々な被害経験の組合せが含まれている。



60歳を過ぎてから5つの悪質商法でいずれかの被害にあった経験について見ると、「被害にあったことがある」が5.7%（189人）、「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」が31.6%（1,043人）となっており、あわせて約4割（37.3%）となっている。

「被害にあったことも勧誘（請求）されたこともない」は、56.9%（1,875人）となっている。

### 5つの悪質商法で、いずれかの被害にあった経験の組合せ

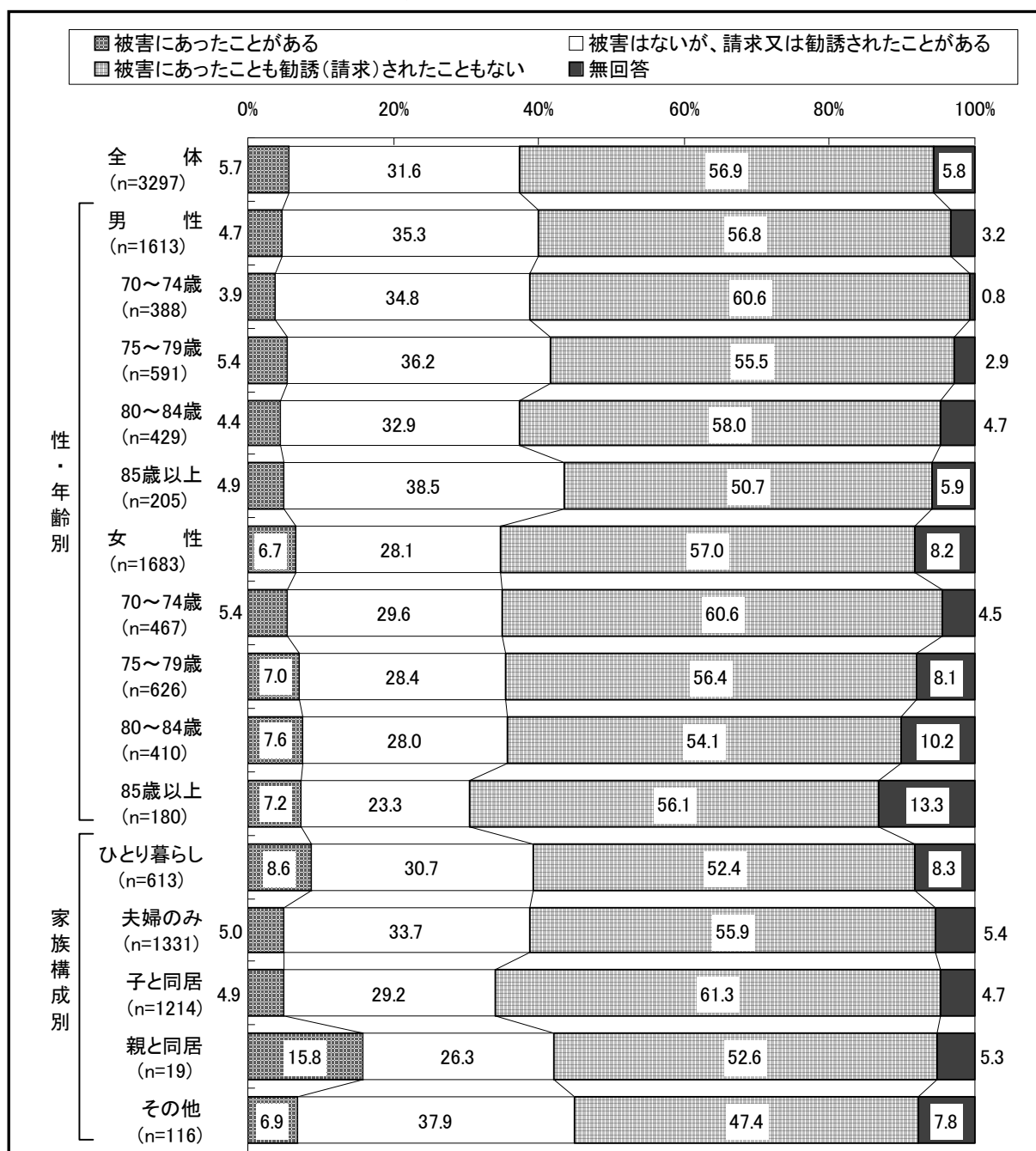
順位	件数(n)	%	被害にあった悪質商法	被害の種類
1	45	23.8	催眠（SF）商法	1
2	42	22.2	利殖商法	1
3	40	21.2	点検商法	1
4	28	14.8	次々販売	1
5	18	9.5	架空請求	1
6	5	2.6	架空請求、点検商法、次々販売、利殖商法、催眠（SF）商法	5
7	3	1.6	点検商法、次々販売	2
8	2	1.1	点検商法、次々販売、利殖商法、催眠（SF）商法	4
9	1	0.5	架空請求、点検商法、次々販売、利殖商法	4
10	1	0.5	架空請求、催眠（SF）商法	2
11	1	0.5	点検商法、利殖商法	2
12	1	0.5	点検商法、利殖商法、催眠（SF）商法	3
13	1	0.5	次々販売、利殖商法	2
14	1	0.5	次々販売、利殖商法、催眠（SF）商法	3
合計	189			

60歳を過ぎてから5つの悪質商法でいずれかの被害にあった人（189人）の被害状況を見ると、1つの商法で被害にあった人が91.5%（173人）と9割を超えている。最も高いのは催眠（SF）商法で23.8%（45人）、利殖商法22.2%（42人）、点検商法21.2%（40人）と続いている。

また、5つの悪質商法それぞれの被害にあった人数の合計（延べ人数）は、228人となっているが（16ページの「被害にあった人の延べ人数」より参照）、そのうち16人が複数の悪質商法の被害にあっており、様々な組み合わせが見られる。複数の悪質商法での被害経験がある16人の内訳は、2種類の商法での被害が6人、5種類の商法での被害が5人、4種類の商法での被害が3人、3種類の商法での被害が2人となっている。



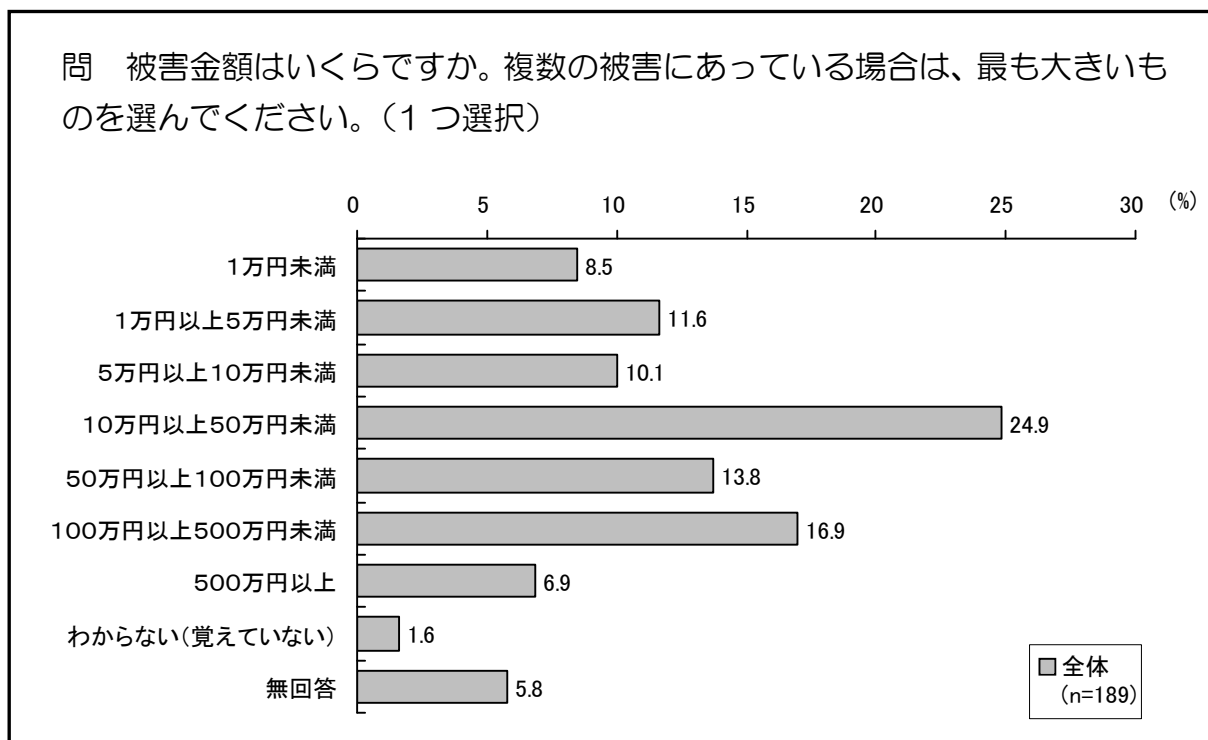
### 5つの悪質商法で、いずれかの被害にあった経験（性・年齢別、家族構成別）



60歳を過ぎてから5つの悪質商法でいずれかの被害にあった経験について、性別に見ると、「被害にあったことがある」では、男性4.7%、女性が6.7%と女性が2ポイント高くなっている。性・年齢別に見ると、女性80~84歳が7.6%で最も高く、続いて女性85歳以上が7.2%、女性75~79歳が7.0%と、75歳以上の女性が高くなっている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、男性が35.3%、女性は28.1%で男性が7.2ポイント高くなっている。性・年齢別に見ると、男性85歳以上が38.5%で最も高く、男性75~79歳が36.2%で続いている。

家族構成別に見ると、「被害にあったことがある」では親と同居が15.8%で最も高く、ひとり暮らしが8.6%で続いている。「被害はないが、請求又は勧誘されたことがある」では、その他が37.9%で最も高く、夫婦のみが33.7%、ひとり暮らしが30.7%で続いている。

#### (4) 悪質商法の被害金額（被害にあった人に質問）



悪質商法による被害経験者（189人）の被害金額について見ると、「10万円以上50万円未満」が24.9%（47人）で最も高く、次いで「100万円以上500万円未満」が16.9%（32人）、「50万円以上100万円未満」が13.8%（26人）となっている。100万円以上の高額被害は23.8%（45人）と2割を超えている。

悪質商法の被害金額（性・年齢別）

上段：(人数) 下段：%	件数 (n)	1 万 円 未 満	1 万 円 以 上 5 万 円 未 満	5 万 円 以 上 1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 以 上 5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 以 上 1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 以 上 5 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 以 上	わ か ら な い ( 覚 え て い な い )	無 回 答	
全体	(189) 100.0	(16) 8.5	(22) 11.6	(19) 10.1	<b>(47)</b> <b>24.9</b>	(26) 13.8	(32) 16.9	(13) 6.9	(3) 1.6	(11) 5.8	
性・年齢別	男性	(76) 100.0	(7) 9.2	(10) 13.2	(6) 7.9	(15) 19.7	(7) 9.2	<b>(16)</b> <b>21.1</b>	(8) 10.5	(3) 3.9	(4) 5.3
	70~74歳	(15) 100.0	(1) 6.7	<b>(4)</b> <b>26.7</b>	(1) 6.7	(1) 6.7	(1) 6.7	(3) 20.0	(2) 13.3	(0) 0.0	(2) 13.3
	75~79歳	(32) 100.0	(3) 9.4	(4) 12.5	(3) 9.4	(7) 21.9	(2) 6.3	<b>(10)</b> <b>31.3</b>	(1) 3.1	(1) 3.1	(1) 3.1
	80~84歳	(19) 100.0	(0) 0.0	(2) 10.5	(2) 10.5	<b>(5)</b> <b>26.3</b>	(3) 15.8	(1) 5.3	(4) 21.1	(2) 10.5	(0) 0.0
	85歳以上	(10) 100.0	<b>(3)</b> <b>30.0</b>	(0) 0.0	(0) 0.0	(2) 20.0	(1) 10.0	(2) 20.0	(1) 10.0	(0) 0.0	(1) 10.0
	女性	(113) 100.0	(9) 8.0	(12) 10.6	(13) 11.5	<b>(32)</b> <b>28.3</b>	(19) 16.8	(16) 14.2	(5) 4.4	(0) 0.0	(7) 6.2
	70~74歳	(25) 100.0	(2) 8.0	(1) 4.0	(5) 20.0	<b>(8)</b> <b>32.0</b>	(3) 12.0	(3) 12.0	(1) 4.0	(0) 0.0	(2) 8.0
	75~79歳	(44) 100.0	(4) 9.1	(7) 15.9	(5) 11.4	<b>(10)</b> <b>22.7</b>	(7) 15.9	(6) 13.6	(2) 4.5	(0) 0.0	(3) 6.8
	80~84歳	(31) 100.0	(2) 6.5	(3) 9.7	(2) 6.5	<b>(13)</b> <b>41.9</b>	(5) 16.1	(5) 16.1	(1) 3.2	(0) 0.0	(0) 0.0
	85歳以上	(13) 100.0	(1) 7.7	(1) 7.7	(1) 7.7	(1) 7.7	<b>(4)</b> <b>30.8</b>	(2) 15.4	(1) 7.7	(0) 0.0	(2) 15.4

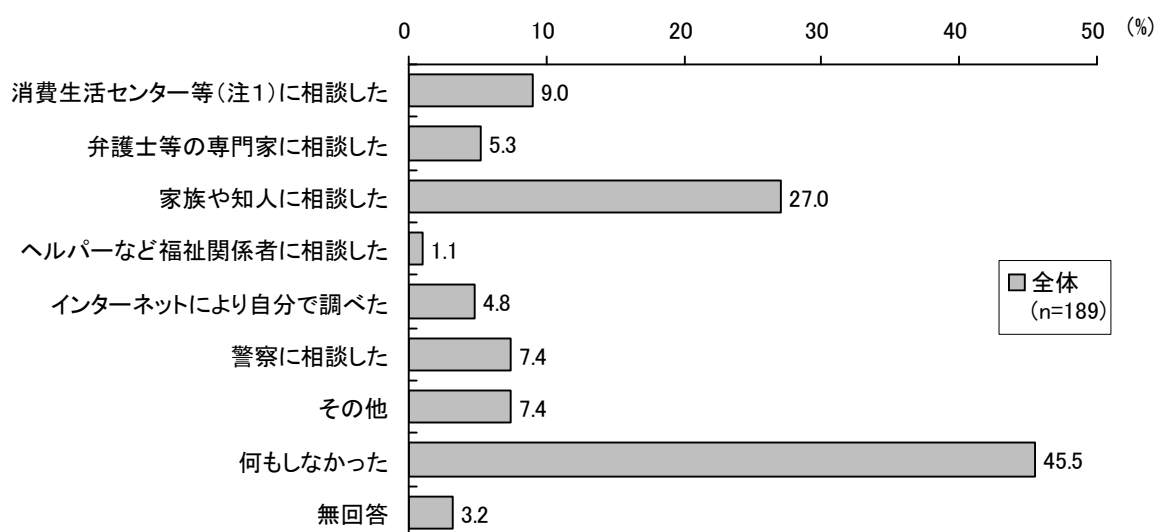
※表中の太字網掛けの部分は、各区分の中で最も高い回答割合であることを示す。

悪質商法の被害金額について、性別に見ると、男性では「100万円以上 500万円未満」が21.1%で最も高く、女性では「10万円以上 50万円未満」が28.3%で最も高くなっている。

性・年齢別に見ると、男性は、70~74歳は「1万円以上 5万円未満」が、75~79歳は「100万円以上 500万円未満」が、80~84歳は「10万円以上 50万円未満」が、85歳以上は「1万円未満」がそれぞれ1位となっており、各年齢区分において1位となった金額が異なっているが、女性は85歳以上の区分を除く3つの年齢区分において「10万円以上 50万円未満」が1位となっている。

## (5) 悪質商法の被害後の行動（被害にあった人に質問）

問 被害にあった後、誰かに相談したり、自分で調べたりしましたか。  
（複数回答可）



（注1）「消費生活センター等」とは、東京都消費生活総合センター（東京都の相談窓口）または区市町村の消費生活センター（消費生活相談窓口を含む）を指す。

悪質商法の被害にあった人の被害後の行動を見ると、「何もしなかった」人が45.5%と約5割となっている。次いで「家族や知人に相談した」が27.0%、「消費生活センター等に相談した」が9.0%となっている。その他の具体的内容には、「クレジット会社に相談した」「自分で解決した」などが挙げられた。

悪質商法の被害後の行動（性・年齢別、家族構成別、被害金額別）

		件数 (n)	消 費 生 活 セ ン タ ー 等 に 相 談 し た	弁 護 士 等 の 専 門 家 に 相 談 し た	家 族 や 知 人 に 相 談 し た	ハ ル バ ー に 相 談 し た	関 係 者 に 相 談 し た	イ ン タ ー ネ ッ ト に 自 分 で 調 べ た	警 察 に 相 談 し た	そ の 他	何 も し な か っ た	無 回 答
全体		(189)	9.0	5.3	27.0	1.1	4.8	7.4	7.4	7.4	<b>45.5</b>	3.2
性・年齢別	男性	(76)	3.9	3.9	21.1	1.3	10.5	6.6	7.9	7.9	<b>51.3</b>	2.6
	70～74歳	(15)	6.7	6.7	20.0	0.0	20.0	6.7	6.7	6.7	<b>33.3</b>	13.3
	75～79歳	(32)	3.1	3.1	21.9	0.0	12.5	3.1	3.1	3.1	<b>56.3</b>	0.0
	80～84歳	(19)	5.3	5.3	21.1	5.3	5.3	5.3	15.8	15.8	<b>52.6</b>	0.0
	85歳以上	(10)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	<b>60.0</b>	0.0
	女性	(113)	12.4	6.2	31.0	0.9	0.9	8.0	7.1	7.1	<b>41.6</b>	3.5
	70～74歳	(25)	12.0	0.0	<b>40.0</b>	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	<b>40.0</b>	4.0
	75～79歳	(44)	11.4	4.5	29.5	0.0	2.3	15.9	11.4	11.4	<b>36.4</b>	2.3
	80～84歳	(31)	9.7	9.7	29.0	0.0	0.0	6.5	6.5	6.5	<b>51.6</b>	0.0
85歳以上	(13)	23.1	15.4	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>38.5</b>	15.4	
家族構成別	ひとり暮らし	(53)	18.9	9.4	<b>32.1</b>	1.9	1.9	9.4	7.5	7.5	<b>32.1</b>	1.9
	夫婦のみ	(66)	4.5	3.0	33.3	1.5	3.0	6.1	10.6	10.6	<b>43.9</b>	3.0
	子と同居	(59)	5.1	3.4	20.3	0.0	8.5	6.8	3.4	3.4	<b>57.6</b>	3.4
	親と同居	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	<b>66.7</b>	0.0
	その他	(8)	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	<b>50.0</b>	12.5
被害金額別	1万円未満	(16)	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	<b>50.0</b>	0.0
	1万円以上5万円未満	(22)	13.6	0.0	<b>45.5</b>	0.0	4.5	0.0	4.5	4.5	36.4	0.0
	5万円以上10万円未満	(19)	10.5	0.0	31.6	0.0	5.3	5.3	5.3	5.3	<b>47.4</b>	0.0
	10万円以上50万円未満	(47)	6.4	4.3	17.0	0.0	4.3	4.3	10.6	10.6	<b>59.6</b>	0.0
	50万円以上100万円未満	(26)	11.5	7.7	34.6	3.8	3.8	11.5	7.7	7.7	<b>38.5</b>	3.8
	100万円以上500万円未満	(32)	9.4	3.1	21.9	0.0	9.4	6.3	9.4	9.4	<b>46.9</b>	0.0
	500万円以上	(13)	23.1	<b>38.5</b>	23.1	0.0	7.7	23.1	0.0	0.0	30.8	0.0
	わからない(覚えていない)	(3)	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>66.7</b>	0.0

※表中の太字網掛けの部分は、各区分の中で最も高い回答割合であることを示す。

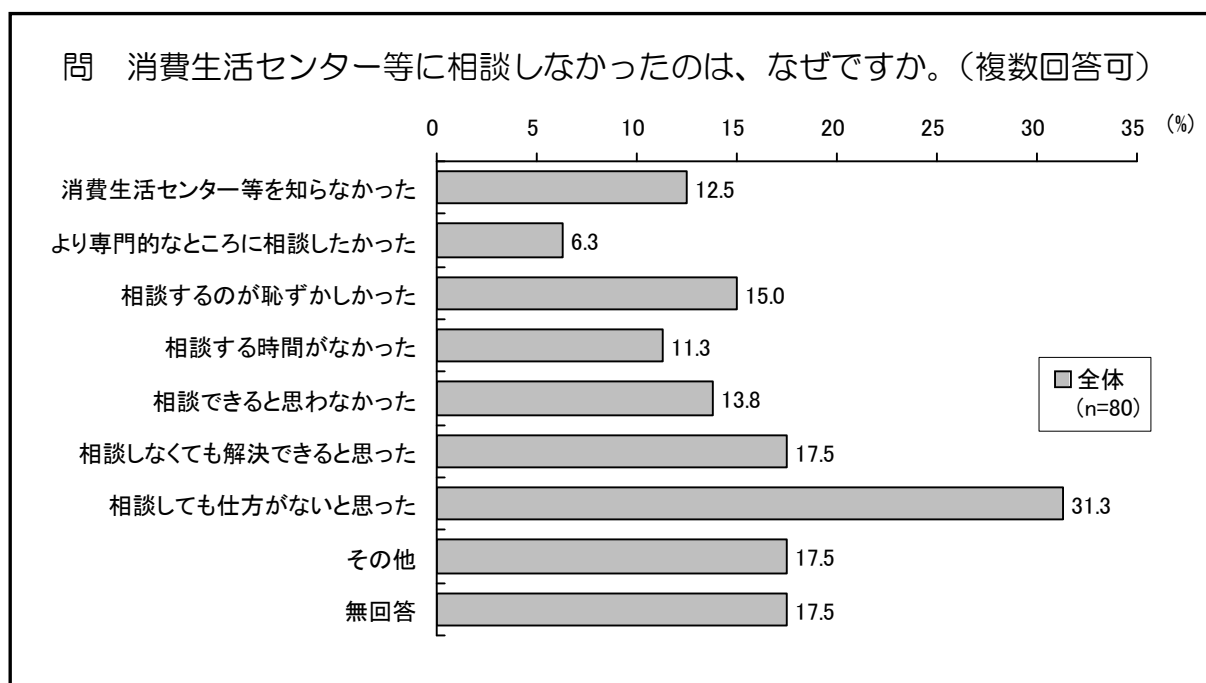
悪質商法の被害後の行動について、性別に見ると「何もしなかった」では、男性が51.3%、女性が41.6%で、9.7ポイント男性が高くなっている。性・年齢別に見ると、全ての年齢区分において「何もしなかった」が1位となっているが、女性70～74歳では「家族や知人に相談した」が同率1位で挙がっている。「消費生活センター等に相談した」では、女性が12.4%であるが、男性が3.9%となっており、全ての年齢区分においても女性が男性を上回っている。特に85歳以上の年齢区分においては、女性は23.1%だが、男性は0%となっているなど男女の差が見られる。

家族構成別に見ると、全ての区分において「何もしなかった」が1位となっている。ただしひとり暮らしでは「家族や知人に相談した」が同率1位で挙がっている。「消費生活センター等に相談した」では、ひとり暮らしが18.9%（約2割）と最も高くなっている。

被害金額別に見ると、1万円以上5万円未満では「家族や知人に相談した」が45.5%で最も高く、500万円以上では、「弁護士等の専門家に相談した」が38.5%で最も高くなっている。それ以外の区分では「何もしなかった」が最も高くなっている。

## (6) 被害後に消費生活センター等に相談しなかった理由

(被害後に消費生活センター等以外に相談したり、自分で調べたりした人に質問)



被害後に消費生活センター等に相談しなかった理由は、「相談しても仕方がないと思った」が31.3%で最も高くなっている。次いで「相談しなくても解決できると思った」と「その他」が同率の17.5%、「相談するのが恥ずかしかった」が15.0%と続いている。

その他の具体的な内容には、「自分にも責任があったと思った」等が挙げられた。

被害後に消費生活センター等に相談しなかった理由（性・年齢別、家族構成別）

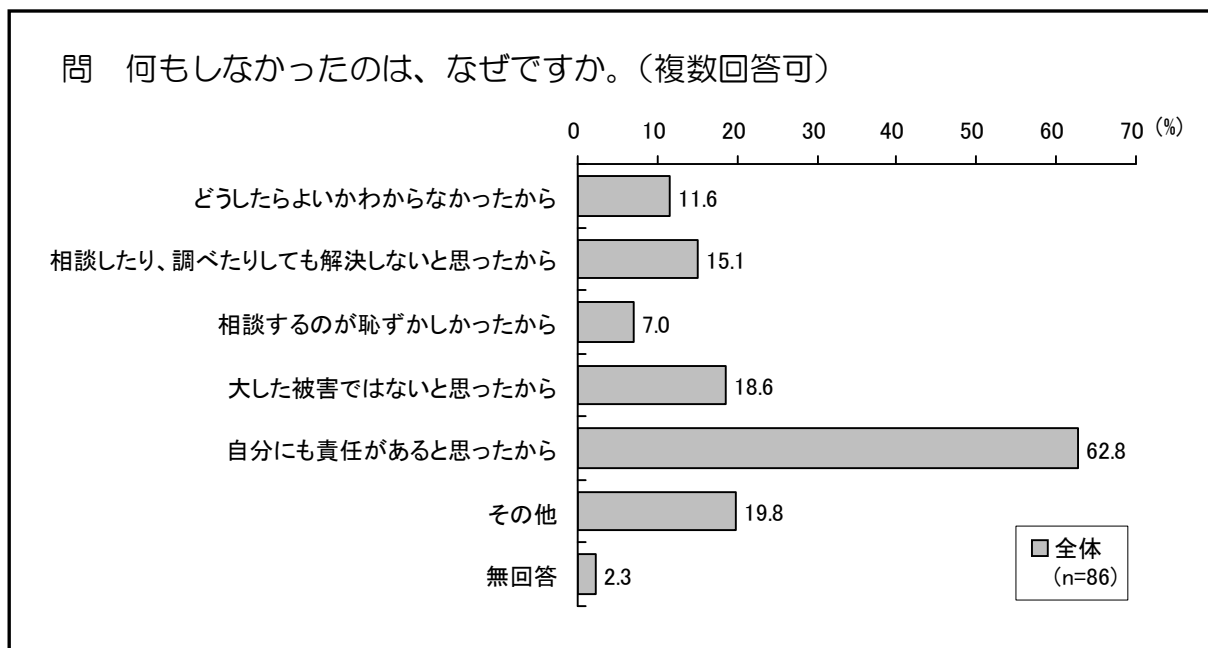
		(%)									
	件数 (n)	消費生活センター等を知らなかった	より専門的なところに相談しなかった	相談するのが恥ずかしかった	相談する時間がなかった	相談できると思わなかった	相談しなくても解決できると思った	相談しても仕方がないと思った	その他	無回答	
全体	(80)	12.5	6.3	15.0	11.3	13.8	17.5	<b>31.3</b>	17.5	17.5	
性・年齢別	男性	(32)	12.5	6.3	12.5	6.3	15.6	31.3	<b>37.5</b>	18.8	6.3
	70～74歳	(7)	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	<b>42.9</b>	28.6	28.6	0.0
	75～79歳	(13)	7.7	0.0	0.0	15.4	23.1	38.5	<b>46.2</b>	23.1	0.0
	80～84歳	(8)	<b>37.5</b>	0.0	25.0	0.0	25.0	12.5	<b>37.5</b>	12.5	0.0
	85歳以上	(4)	0.0	<b>25.0</b>	0.0	0.0	0.0	<b>25.0</b>	<b>25.0</b>	0.0	50.0
	女性	(48)	12.5	6.3	16.7	14.6	12.5	8.3	<b>27.1</b>	16.7	25.0
	70～74歳	(11)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	27.3	<b>36.4</b>	18.2
	75～79歳	(22)	18.2	9.1	13.6	18.2	18.2	4.5	<b>27.3</b>	9.1	27.3
	80～84歳	(12)	8.3	8.3	<b>33.3</b>	16.7	8.3	8.3	<b>33.3</b>	16.7	25.0
85歳以上	(3)	<b>33.3</b>	0.0	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	0.0	0.0	0.0	33.3	
家族構成別	ひとり暮らし	(25)	20.0	8.0	16.0	12.0	16.0	8.0	<b>32.0</b>	8.0	28.0
	夫婦のみ	(32)	15.6	6.3	12.5	9.4	15.6	18.8	<b>34.4</b>	21.9	9.4
	子と同居	(20)	0.0	5.0	10.0	10.0	10.0	<b>30.0</b>	25.0	25.0	20.0
	親と同居	(1)	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0
	その他	(2)	0.0	0.0	<b>50.0</b>	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※表中の太字網掛けの部分は、各区分の中で最も高い回答割合であることを示す。

消費生活センター等に相談しなかった理由について、性別に見ると、「相談しても仕方がないと思った」が、男性が37.5%、女性が27.1%で男女ともに1位となっている。性・年齢別に見ると、男性70～74歳では「相談しなくても解決できると思った」が42.9%と4割を超えている。

家族構成別に見ると、夫婦のみが34.4%、ひとり暮らしが32.0%で、「相談しても仕方がないと思った」がそれぞれ1位となっている。子と同居では、「相談しなくても解決できると思った」が30.0%で1位となっている。

(7) 被害後に「何もしなかった」理由  
(被害後に何もしなかった人に質問)



被害後に「何もしなかった」人の理由としては、「自分にも責任があったと思ったから」と回答した人が 62.8%と最も高く、6 割を超えている。次いで「その他」が 19.8%、「大した被害ではないと思ったから」が 18.6%、「相談したり、調べたりしても解決しないと思ってから」が 15.1% となっている。その他の具体的内容としては、「後で何をされるかわからず怖いから」「騙されていることが後からわかったから」などが挙げられた。



被害後に「何もしなかった」理由（性・年齢別、家族構成別）

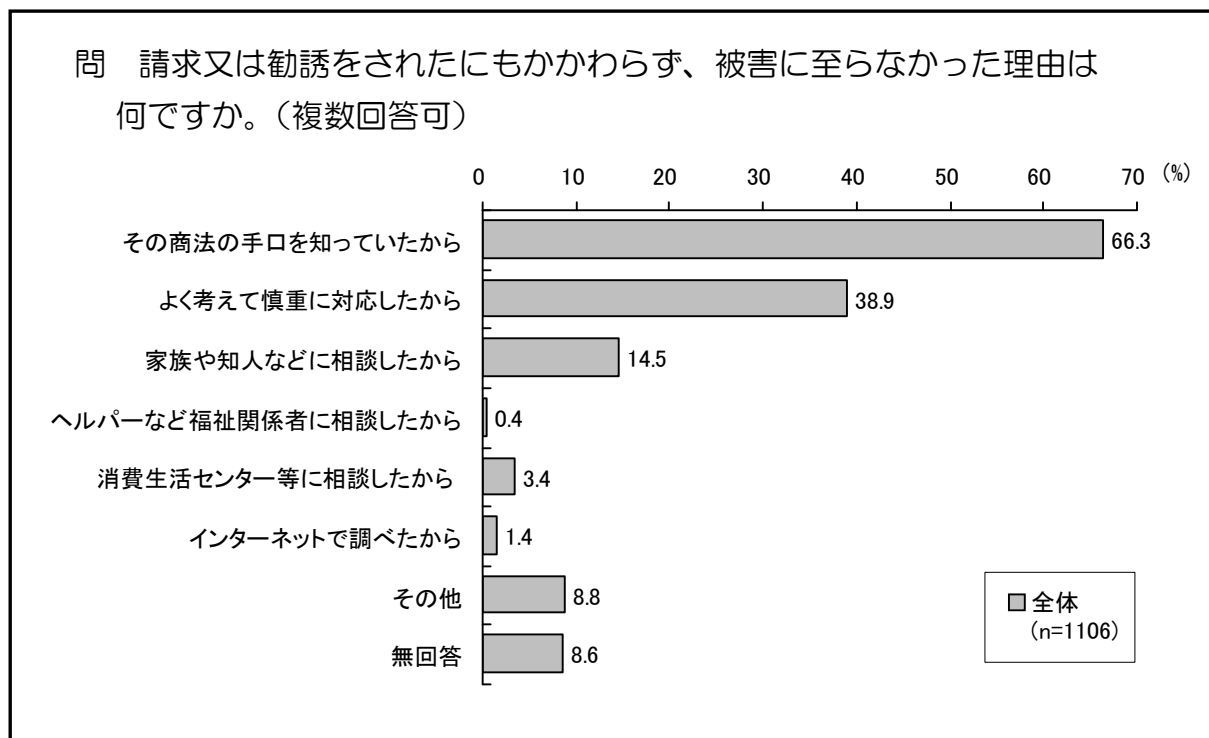
		件数 (n)	か ど う し た ら よ い か わ か ら な か っ た	相 談 し な い と 思 っ た か ら	相 談 す る の が 恥 ず か し か っ た か ら	大 し た 被 害 で は な い と 思 っ た か ら	自 分 に も 責 任 が あ る と 思 っ た か ら	そ の 他	(%) 無 回 答
全体		(86)	11.6	15.1	7.0	18.6	<b>62.8</b>	19.8	2.3
性・ 年 齢 別	男性	(39)	10.3	20.5	2.6	17.9	<b>59.0</b>	23.1	2.6
	70～74歳	(5)	0.0	20.0	0.0	0.0	<b>60.0</b>	40.0	0.0
	75～79歳	(18)	11.1	16.7	5.6	16.7	<b>55.6</b>	16.7	5.6
	80～84歳	(10)	20.0	20.0	0.0	20.0	<b>60.0</b>	40.0	0.0
	85歳以上	(6)	0.0	33.3	0.0	33.3	<b>66.7</b>	0.0	0.0
	女性	(47)	12.8	10.6	10.6	19.1	<b>66.0</b>	17.0	2.1
	70～74歳	(10)	20.0	10.0	10.0	0.0	<b>70.0</b>	20.0	0.0
	75～79歳	(16)	0.0	6.3	12.5	50.0	<b>62.5</b>	12.5	0.0
	80～84歳	(16)	12.5	12.5	6.3	0.0	<b>68.8</b>	18.8	6.3
85歳以上	(5)	40.0	20.0	20.0	20.0	<b>60.0</b>	20.0	0.0	
家 族 構 成 別	ひとり暮らし	(17)	11.8	17.6	5.9	23.5	<b>52.9</b>	23.5	0.0
	夫婦のみ	(29)	13.8	10.3	0.0	13.8	<b>62.1</b>	17.2	6.9
	子と同居	(34)	11.8	20.6	14.7	23.5	<b>64.7</b>	17.6	0.0
	親と同居	(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	50.0	0.0
	その他	(4)	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>75.0</b>	25.0	0.0

※表中の太字網掛けの部分は、各区分の中で最も高い回答割合であることを示す。

被害後に「何もしなかった」理由について、性・年齢別に見ると、どの区分においても「自分にも責任があると思ったから」が最も高く、6～7割程度となっている。「相談したり、調べたりしても解決しないと思ったから」では、女性が10.6%に対して男性が20.5%と9.9ポイント男性が高くなっている。逆に「相談するのが恥ずかしかったから」では、男性が2.6%、女性が10.6%と、8ポイント女性が高くなっており、性別による差が見られる。

家族構成別に見ると、どの区分においても「自分にも責任があると思ったから」が最も高くなっている。

(8) 請求や勧誘をされたにもかかわらず、被害に至らなかった理由  
(被害はないが、請求又は勧誘をされたことがある人に質問)



請求や勧誘をされたにもかかわらず、被害に至らなかった理由は、「その商法の手口を知っていたから」が66.3%で最も高く、次いで「よく考えて慎重に対応したから」が38.9%、「家族や知人などに相談したから」が14.5%と続いている。その他の具体的な内容としては、「警察に相談した」などが挙げられた。

請求や勧誘をされたにもかかわらず、被害に至らなかった理由

(性・年齢別、家族構成別)

		(%)								
	件数 (n)	その商法の手口を知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人などに相談したから	ヘルパーなど福祉関係者に相談したから	消費生活センター等に相談したから	インターネットで調べたから	その他	無回答	
全体	(1,106)	<b>66.3</b>	38.9	14.5	0.4	3.4	1.4	8.8	8.6	
性・年齢別	男性	(602)	<b>69.1</b>	38.0	13.1	0.3	3.7	2.0	9.0	6.5
	70～74歳	(142)	<b>72.5</b>	36.6	14.1	0.0	2.8	3.5	12.0	3.5
	75～79歳	(228)	<b>69.3</b>	36.8	10.5	0.0	2.6	1.3	7.5	4.8
	80～84歳	(152)	<b>71.1</b>	42.8	11.2	0.7	3.9	0.7	7.9	9.9
	85歳以上	(80)	<b>58.8</b>	35.0	22.5	1.3	7.5	3.8	10.0	10.0
	女性	(503)	<b>63.0</b>	40.0	15.9	0.4	3.2	0.8	8.5	11.1
	70～74歳	(144)	<b>69.4</b>	46.5	15.3	0.0	2.8	0.7	11.1	7.6
	75～79歳	(190)	<b>63.2</b>	37.9	15.3	0.0	1.6	0.5	6.8	11.1
	80～84歳	(123)	<b>59.3</b>	34.1	17.9	1.6	4.1	1.6	7.3	17.1
85歳以上	(46)	<b>52.2</b>	43.5	15.2	0.0	8.7	0.0	10.9	6.5	
家族構成別	ひとり暮らし	(203)	<b>59.1</b>	40.9	15.3	1.0	2.5	1.5	6.9	12.8
	夫婦のみ	(477)	<b>67.7</b>	38.8	13.6	0.4	4.0	1.9	9.9	5.9
	子と同居	(371)	<b>66.3</b>	38.5	15.4	0.0	3.5	1.1	8.9	9.7
	親と同居	(6)	<b>66.7</b>	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
	その他	(46)	<b>82.6</b>	39.1	15.2	0.0	2.2	0.0	4.3	6.5

※表中の太字網掛けの部分は、各区分の中で最も高い回答割合であることを示す。

請求や勧誘をされたにもかかわらず、被害に至らなかった理由について、性・年齢別に見ると、全ての区分において「その商法の手口を知っていたから」が1位となっており、中でも男性70～74歳が72.5%で最も高くなっている。また「消費生活センター等に相談したから」では男女ともに85歳以上の年齢区分が1位で、女性85歳以上が8.7%、男性85歳以上が7.5%となっている。

家族構成別に見ると、どの区分においても「その商法の手口を知っていたから」が最も高くなっている。